

茎葉多収飼料イネ「たちすずか」 に適した窒素施用時期



～ 穂の短い「たちすずか」の安定生産のために ～

連携機関 | 独立行政法人農研機構近畿中国四国農業研究センター, 畜産技術センター他
研究期間 | 平成22～23年度[競争的資金注] 注)(独)農研機構・近中四農研 交付金プロジェクト研究

技術支援のきっかけ

- ◆ 「たちすずか」は、飼料としての栄養価が優れた飼料イネの新品種です。
- ◆ 飼料とするには、茎葉部分が多収となる栽培法が必要です。一方で、種子生産には籾数を増加させる栽培法が必要です。
- ◆ 新品種の「たちすずか」の安定生産には、この2種類の栽培法を確立する必要がありました。

技術支援の成果

- ◆ 茎葉多収及び種子生産のための最適施用時期と施用量を解明しました。
 - ・茎葉多収栽培は、田植えを5月に行い、基肥と出穂30～60日前の追肥を窒素各4～8kg/10a施用
 - ・種子生産は、田植えを6月中旬以降に行い、出穂20日前に窒素10kg/10a施用



技術支援の活用場面

- ◆ 飼料イネを生産する県内の集落法人等で活用されています。
- ◆ 本技術は「たちすずか」の普及拡大に貢献します。
- ◆ 本技術は近畿中国四国農業研究センターホームページに掲載の‘高糖分飼料イネ「たちすずか」栽培技術マニュアル’にも紹介されています。